

(1) 一貫指導体制の充実

① トップレベルのアスリートを確保するため、県体育協会や関係団体等へ指導、助言を行い、ジュニアから中・長期的展望に立った一貫指導体制の充実を図ります。

(2) 指導者の資格取得支援

① 若い世代の有資格指導者を確保するため、各競技団体に対し、指導者資格の取得を支援します。

(3) 中学校運動部活動指導者の資格取得支援

① 中学校運動部活動において、専門的技術指導や科学的・効果的なトレーニングを充実させるため、教員の指導者資格の取得を支援します。

(4) クリーンでフェアなスポーツの推進

① 県体育協会に相談窓口を設置し、パワハラ・セクハラ行為や暴力行為等の根絶に向け対応していくことにより、クリーンでフェアなスポーツを推進します。

② 各競技団体のスポーツインテグリティ（誠実性・健全性・高潔性）を高め、コンプライアンスの徹底を図るため、強化会議やヒアリング等を通じて各競技団体に指導します。

○数値目標

指 標	2018年度 (平成30) の現況値	2023年度 (平成35) の目標値
競技力向上に係る優秀な若手指導者を育成・強化している競技団体の割合 ※	_____ %	100 %

※ 下線の2018(平成30)年度の現況値については、本年12月の調査結果を待つて数値を確定します。

政策項目3 スポーツ医・科学の活用

スポーツ医・科学を活用したアスリートの育成を図るため、安全で効果的な練習方法の普及やアンチドーピングの啓発、女性アスリートの健康問題への対応などに取り組みます。

現状と課題

○ 選手の競技力向上のためには、大会や強化練習会にスポーツドクターやアスレチックトレーナーを派遣して医・科学的な助言を行う必要があります。

- 選手・指導者を対象とした講習会を開催し、スポーツ事故やスポーツ傷害の防止、アンチドーピングの啓発を周知していく必要があります。
- 女性アスリートが活躍するためには、女性特有のコンディショニングや健康問題等の課題に取り組む必要があります。

具体的な方策

(1) 情報分析と医・科学的な助言

① 県体育協会のスポーツ医・科学委員会と連携し、各競技団体に対して競技力向上のため情報分析などの医・科学的なサポートを行います。

(2) スポーツ事故や傷害などの予防

① スポーツドクターやアスレチックトレーナーなどの専門家と連携して、スポーツ事故の防止や選手の発達段階に応じたスポーツ傷害の予防等に取り組みます。

(3) アンチドーピングの啓発

① アンチドーピングを徹底するため、講習会等を開催して情報提供や啓発を図ります。

(4) 女性アスリートへの支援

① 女性アスリートの活躍を支援するため、選手、指導者、保護者に対して女性特有のコンディショニングの指導や健康問題などの情報提供を行います。

政策項目 4 障害者のスポーツ活動の推進

障害者がスポーツを通じて社会参画できるように環境の整備や支援を行うとともに、パラリンピックを目指すパラアスリートの育成・強化の方法を検討していきます。

現状と課題

- スポーツ庁が行った全国調査によると、過去 1 年間にスポーツ・レクリエーションを行ったことのない成人の障害者の割合は約 59% となっており、健常者が過去 1 年間にスポーツを実施していなかった人の割合である約 26% の倍以上となっています。
- こうした障害者がスポーツに参加してもらうためには、障害者が参加することができる機会の充実や拠点になるスポーツ施設が必要です。
- パラリンピックなどの大規模大会へ出場するようなパラアスリートに対して、競技力向上に向けた支援体制等の仕組みを構築していく必要があります。

障害者のスポーツの実施状況



障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究(2018(平成30)年3月)より

具体的方策

(1) 障害者スポーツの拠点づくり

①学校教育外における障害者の継続的なスポーツの実施促進に向け、身近な場所でスポーツに親しむ機会の充実や環境づくりをはじめ、特別支援学校等を活用した地域における障害者スポーツの拠点づくりを推進します。

(2) 障害者スポーツの普及

①スポーツやレクリエーション活動に取り組もうとする障害者を指導する障害者スポーツ指導員等を育成・派遣します。また、各種スポーツ大会への参加促進や全国的な規模の大会へ選手を派遣するなど、障害者スポーツの普及を図ります。

(3) パラスリートの育成・強化

①パラリンピックなどを目指すパラスリートの育成、強化の方法を検討していきます。

基本方針Ⅴ 「スポーツを通じた地域の活性化」

ラグビーワールドカップや東京オリンピック・パラリンピックなどの国際的なスポーツイベントの開催を好機として、トップアスリートとの交流やスポーツボランティアとしての参加などにより、県民がスポーツに親しむ機会を増やすとともに、スポーツを通じた地域の活性化につなげます。

政策項目 1 オリンピック・パラリンピック教育の推進

東京オリンピック・パラリンピックの開催を好機として、オリンピックやパラリンピアンとの交流や競技の体験を通じて、オリンピック・パラリンピックの価値や精神を学ぶ機会を設けます。

現状と課題

- 東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、大会への関心を高めていくほか、スポーツの価値についても子供たちに伝えていく必要があります。

具体的方策

(1) オリンピック・パラリンピック教室の開催

①子供たちに競技を体験する機会を設けるとともに、スポーツの価値、国際・異文化、共生社会への理解を深め、規約やルールを守るといった規範意識を養うなど多面的な教育を実施していきます。

(2) スポーツによる国際交流

①スポーツを通じて次世代を担う青少年の国際交流を促進し、海外の国との親善を深めます。

政策項目 2 東京オリンピック・パラリンピック等に向けた機運の醸成

東京オリンピック・パラリンピックに向けて、トップアスリートを講師として招き、機運の醸成を図ります。

現状と課題

- 本県において、ラグビーワールドカップや東京オリンピック・パラリンピックといった国際的スポーツイベントの事前合宿等が行われることに伴い、機運の醸成を図る必要があります。

具体的方策

(1) トップアスリートによる機運の醸成

①本県ゆかりのオリンピック・パラリンピアンなどトップアスリートによる講演会を開催することにより、東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けた機運の醸成を図ります。

(2) パラスポーツの体験

①山梨県地域スポーツ推進協議会の構成団体を通じて、地域住民が普段知られていないパラスポーツを体験する機会を設け、東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けた機運の醸成を図ります。

(3) 東京オリンピック・パラリンピック候補選手の活用

①本県の国体強化選手やジュニア選手、指導者に、本県ゆかりのトップアスリートによる実技指導や講習会を行うことにより、東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けた機運の醸成とともに競技力の向上を図ります。

政策項目 3 スポーツによる地域振興

ラグビーワールドカップや東京オリンピック・パラリンピックなど国際大会の開催に伴い、事前合宿が県内で実施されることや、来県するトップアスリートと地元住民との交流などを通じて、地域振興につなげていきます。

現状と課題

- 県内でラグビーワールドカップや東京オリンピック・パラリンピックの事前合宿が行われることから、見学者を周辺地域の観光に導くことで、地域の活性化につなげていく必要があります。
- 富士北麓公園をラグビー、陸上競技などのトップアスリートの合宿地として定着させるだけでなく、子供たちとの交流事業などを中心に、本県の競技力向上や地域振興につなげていく必要があります。

山梨県内の東京オリンピック・パラリンピック事前合宿地	
市町村名	国名
甲府市	フランス
富士吉田市	フランス
山梨市	ドイツ
北杜市	フランス
笛吹市	タイ
甲州市	フランス
西桂町	フランス
忍野村	フランス
山中湖村	フランス
富士河口湖町・鳴沢村	フランス
11	3

山梨県内の日本代表強化合宿地	
市町村名	競技種目
富士吉田市、富士河口湖町	7人制ラグビー(男子・女子)
富士吉田市	陸上競技(男子短距離)
甲府市、富士河口湖町ほか	トライアスロン(男子・女子)

具体的方策

(1) トップアスリートとの交流

- ① 県、市町村、競技団体、民間団体が連携・協力して、事前合宿で県内を訪れるトップアスリートと県内の選手や地域住民とが交流する機会を設けて、スポーツを通じた地域の活性化を図ります。
- ② 日本代表選手を間近に見たり、スポーツ教室などの交流事業で子供たちがトップアスリートと触れあうことにより、本県の競技力向上や競技人口拡大を図っていきます。

(2) スポーツツーリズムの活用

- ① 事前合宿等で訪れる国内外からの訪問者に対し、市町村や関係団体と連携して、県内の情報を発信することで、スポーツを通じた地域の観光振興を図ります。

(3) トップアスリートの強化合宿の受入強化

- ① 県、市町村、競技団体、民間団体が連携・協力して、日本代表強化合宿を円滑に受け入れることにより、今後より多くの日本代表強化合宿を実現し、本県をトップアスリートの合宿地として定着させ、地域振興につなげます。

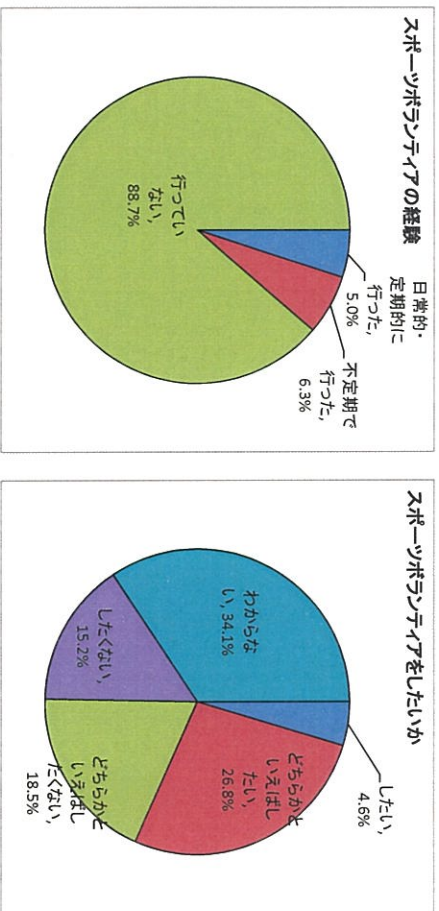
政策項目 4 「ささえる」スポーツの機会拡大

「ささえる」スポーツの機会を拡大するため、スポーツボランティアへの参画を促すとともに、活用の機会を拡げるため支援を行います。

現状と課題

- 県政モニターへのアンケート調査の結果によると、「する」「みる」「ささえる」スポーツの中で、過去1年間にスポーツボランティアとして「ささえる」スポーツに取り組んだ人の割合は約11%でした。
- 今後、スポーツボランティアに取り組みたい人の割合は約31%だったことから、スポーツボランティアに参画する機会を拡大するとともに、潜在的な参画希望者を活用していく必要があります。

県民のスポーツボランティアに関する意識



県政モニターへのアンケート調査より

具体的方策

(1) 「ささえる」スポーツの情報提供

①県民に「ささえる」スポーツについて知ってもらおうとともに、潜在的な参加希望者を取り込めるよう、スポーツボランティアの情報提供を行っていきます。

(2) スポーツボランティアの活用

①大学等と連携し、学校スポーツや地域スポーツの場で学生によるスポーツボランティアが活用できるよう努めます。

第5章 計画の実現に向けて

1 推進体制

県庁内の推進体制

- 本計画に基づきスポーツに係る幅広い分野の方策を推進していくため、県庁内の関係各課と密接に連携・協働しながら計画を推進します。

市町村や関係機関との連携・協働

- 県民誰もが、いつでも、どこでもスポーツに親しめる環境づくりを推進するには、県だけでなく、国や市町村、スポーツ関係団体、学校や企業などの様々な主体が連携・協働するとともに、県民自身が本計画の推進に参画することが不可欠です。
- このため、この計画に掲げる方策の推進に当たっては、国、市町村等の理解と協力を求めるとともに、あらゆる機会を通じて県民の主体的な参画が得られるように努めていきます。

2 計画の進行管理

計画の進捗状況の検証と計画の見直し

- 今後5年間に取り組む施策については、計画で掲げた課題の解決を着実に進めるため、常に数値目標などの達成状況や問題点を把握し、適切な進行管理を行います。
※ 別紙 数値目標一覧を参照
- このために、PDCAサイクルに基づき、計画 (Plan)、実行 (Do)、評価 (Check)、改善 (Action) を行いながら計画を推進し、スポーツを取り巻く環境の変化を迅速に把握して対応するため、山梨県スポーツ推進審議会に報告するとともに意見を求め、必要がある場合には計画の一部見直しを行います。

県民へ進捗状況を公表

- 計画の進捗状況は、県民に公表します。

基本方針Ⅰ

【政策項目 1】 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」における授業以外でほとんど毎日(週420分以上)運動やスポーツを実施している児童の割合(小5)	2017年度 (平成29) の現況値	2023年度 (平成35) の目標値
	男子 59.1% 女子 33.3%	男子 ____% 女子 ____%
「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」における児童の体力合計点の全国体力合計点との比較(県平均/全国平均)×100(小5)	男子 98.7% 女子 98.7%	男子 100% 女子 100%
	男子 98.7% 女子 98.7%	男子 100% 女子 100%
【政策項目 2】 平日1日と土日どちらか1日を休養日としている部活動顧問の割合(中学校・高校)※	2017年度 (平成29) の現況値	2023年度 (平成35) の目標値
	中学校 平日 62.7% 土日 84.2%	中学校 平日 ____% 土日 ____%
	高校 平日 70.9% 土日 74.2%	高校 平日 ____% 土日 ____%

※ 下線の2023(平成35)年度の目標値については、2018(H30)年度の調査結果を待ち、12月に数値を確定します。

基本方針Ⅱ

【政策項目 1】 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における「朝食を食べない日が多い」「食べない」児童生徒の割合(小5、中2)	2017年度 (平成29) の現況値	2023年度 (平成35) の目標値
	小5男子 1.8% 小5女子 1.9% 中2男子 3.8% 中2女子 4.2%	小5男子 ____% 小5女子 ____% 中2男子 ____% 中2女子 ____%

※ 下線の2023(平成35)年度の目標値については、2018(H30)年度の調査結果を待ち、12月に数値を確定します。

基本方針Ⅲ

【政策項目 1】 過去1年間に一度も運動・スポーツを実施しなかった人の割合	2018年度 (平成30) の現況値	2023年度 (平成35) の目標値
	20.3%	10%
【政策項目 2】 総合型地域スポーツクラブに関する実態調査におけるPDCAサイクル(※)により運営の改善等を図っている総合型地域スポーツクラブの割合	2018年度 (平成30) の現況値	2023年度 (平成35) の目標値
	30.4%	70%

※PDCAサイクルとは、法人などの組織の事業活動でPlan(計画)、Do(実行)、Check(評価)、Action(改善)を繰り返しながら業務を継続的に改善していく手法。

基本方針Ⅳ

【政策項目 1】 ターゲットエイジを対象とした発掘・育成事業を実施している競技団体の割合※	2018年度 (平成30) の現況値	2023年度 (平成35) の目標値
	____%	100%
国民体育大会における天皇杯得点と順位	803点 36位	900点 20位台

※ 下線の2018(平成30)年度の現況値については、本年12月の調査結果を待つて数値を確定します。

【政策項目 2】 競技力向上に係る優秀な若手指導者を育成・強化している競技団体の割合※	2018年度 (平成30) の現況値	2023年度 (平成35) の目標値
	____%	100%

※ 下線の2018(平成30)年度の現況値については、本年12月の調査結果を待つて数値を確定します。

「山梨県スポーツ推進審議会」委員名簿

(五十音順・敬称略)

氏名	所属・役職	備考
赤池 隆廣 あかいはけ たかひろ	(公財)山梨県体育協会 専務理事	
秋山 知子 あきやま ともこ	(一社)ぼぶらの木 代表理事	
飯田 忠子 いひだ ただこ	山梨県スポーツ推進委員協議会 会長	会長
飯田 春彦 いひだ はるひこ	山梨県高等学校体育連盟 会長	
大崎 恵介 おおさき けいすけ	山梨学院大学 特任講師	
川上 琴美 かわかみ ことみ	山梨学院短期大学 教授	副会長
小林 仁 こばやし じん	山梨県都市教育長会 会長	
佐野 夢加 さの ゆめか	駿台甲府小学校 講師	
鈴木 昌則 すずき ますのり	(一社)山梨県医師会 健康スポーツ医学委員会 委員	
仙洞田 茂雄 せんどうだ しげお	山梨県小中学校体育連盟 会長	
相馬 知恵子 そうま ちえこ	山梨県ホッケー協会 事務局長	
土屋 ひとみ つちや ひとみ	総合型地域スポーツクラブ「クラブ富士山」 アシスタントマネージャー	
中村 和彦 なかもむら かずひこ	山梨大学教育学部 教育学部長	
野呂 秀 のろせ しげる	山梨県レクリエーション協会 会長	
萩原 智子 はぎわら ともこ	(公財)日本水泳連盟 理事	